

## 【高澤知子氏：マースジャパンのペットフレンドリーオフィスと違いを受け入れる文化】

世界中の人々に愛されるM&M'Sやスニッカーズなどのチョコレート菓子、そしてカルカンやシーザー、アイムスやペディグリーなどのペットフードブランドを取り扱うメーカー、マース インコーポレイテッド。米国マース インコーポレイテッドの日本の拠点であるマース ジャパン リミテッドは、ペットフレンドリーオフィスを実践している知る人ぞ知る会社です。広報・渉外部ディレクター高澤知子さんよりペットフレンドリーオフィスの実際の様子やそれが会社に与えている影響などについてのお話がありました。



「実は先日行われた企業調査で、日本でマースという名前を知っている人の割合がとても低いというデータが出てきました。しかし今日ご参加くださっている皆さんには、マースを知っていると挙手していただいた数を見るに、非常によく知っていただいております。」

1911年にアメリカで創業したマース インコーポレイテッドは、現在80以上もの国と地域でビジネスを展開。10万人以上の社員が働く世界規模のとても大きな会社です。

## ペットフレンドリーオフィスとは？



「マース ジャパンの属するマース ペットケア事業部では、“ペットのためのより良い世界”という使命を掲げています。それを実現するひとつの策として社員が普段からペットに接することができるペットフレンドリーオフィスを導入し、猫と犬の習性を考慮したオフィスづくりをしています。」

現在品川にあるオフィスを入った受付エリアにはキャットルームが備えられ、そこで2頭の猫が暮らしているそうです。

「猫たちはマースジャパンの社員として、日々ほかの社員を癒すという仕事をしています。」

また、キャットルームは天井にあるキャットトンネルで隣の会議室とつながっており、トンネルを通して会議室に猫が遊びにやってくることもあるそうです。

「外部のお客様とこの部屋で会議をしているときに猫がやってくると、とても喜んでいただけます。難しい話をしているときでも場が和み、会議の雰囲気良くなるという利点があります。」

ちなみにこの会議室を使うときには、アレルギーがないかどうかを必ず確認してから使用するようになっているそうです。

「マース ジャパンがオフィスで猫を飼い始めたのは 2005 年のことです。品川の前は目黒にオフィスがあったのですが、目黒のオフィスに引っ越すときに世界中で推進していたペットフレンドリーオフィスを取り入れてみようということになり、猫が飼える物件を探しました。その時は、保護猫とブリーダーから迎えた猫それぞれ 1 頭ずつと暮していました。その一代目の猫たちはすでに里親に引き取っていただいて引退しています。ですので今の社員猫、ちよび(黒白)ときなこ(茶色)の 2 頭は二代目になります。」

そのちよびときなこは小笠原諸島からやってきました。

「小笠原諸島には多くの野生動物が生息し、中には絶滅危惧種の鳥類もいます。もともと肉食の捕食動物がいない島で進化した動物たちは警戒心が薄いため、人間が持ち込んだ猫に対して防衛する手立てもなく、あっという間に猫に捕食されてしまう状況になっていました。そこで小笠原にいる猫の捕獲活動がはじまり、捕獲された猫を都会で譲渡する“小笠原ネコプロジェクト”が立ち上げられました。二代目は、その小笠原ネコプロジェクトから迎えようということになり、できるだけ人になつきやすく、多くの人と触れ合っても大丈夫な猫を選びました。」

ちょびときなこの毎日の世話は社員によって行われるだけでなく、社員の中にいる 4 名の獣医師が健康管理もしっかりと行っているそうです。

「オフィスには 2 頭の社員猫が暮らしていますが、それとは別に、社員は事前に登録すれば各自が飼っている犬や猫と同伴出勤ができる制度があります。犬を連れてくる人の方がずっと多いですが、猫もたまに同伴出勤してることがあります。」

会社ではペット同伴出勤制度を運用していくにあたり、ガイドラインを作成しているそうです。

「オフィスに連れてきていい犬や猫は健康で、しつけがしっかりできている、穏やかで人に慣れている、ワクチン接種済みである、トイレトレーニングが済んでいるということを条件にしています。ペット同伴出勤のルールとマナー、ガイドラインについては社内にも掲示してあります。ペットを連れてくる本人と周りで働いている社員がお互いに気を使って同伴出勤を気持ちよく受け入れられるよう皆で心がけることで、この制度を活かしています。」

マース ジャパンにはペット同伴出勤のほかにも、ペットに関連したさまざまな制度があります。

「ひとつがペットの慶弔に関する制度です。ペットを飼い始めた社員は 1 日特別有給休暇とお祝い金の支給があります。ペットを亡くした際も、お見舞いのための特別有給休暇 1 日とお見舞金が支給されます。また、品川という場所に会社がありますので、満員電車に乗っての同伴出勤は非常に厳しいものがあります。ですので、同伴出勤には車を使う社員が多いのですが、車を持っていない社員には上限付きで通勤費のサポートをしています。」

そのほかにも、ペットの写真や名前を入れた名刺の作成、出張時のペットホテル代のサポート、社員のペットの写真を集めたカレンダーの制作などを行っているそうです。

「同伴出勤はオフィスの広さなどを考慮し、1 日 3 頭までと上限を定めています。連れてきた犬や猫の相性が悪い場合でも、3 頭までであれば適度な距離を保って過ごすことができるためです。また、世界的に年に一度行われています“Take your dog to work week”という職場に犬を連れて行く強化週間がありまして、その期間は 5 頭くらいまでは OK にしています。また、昨年度は災害時のペット同行避難のセミナーを開催するなど、ただ犬を連れてくるだけでなく勉強になるセミナーを社員が企画して実施しています。」

マースでは世界中のオフィスで導入が推進されており、日本だけでなく、アメリカやブラジル、メキシコ、台湾など各国のオフィスでもペットフレンドリーオフィスの導入が実現しているそうです。

## ペットフレンドリーオフィスであることの良い影響

オフィスにペットがいることで、そこで働く人々にどのような影響を及ぼしているのでしょうか。

「オフィスに動物がいることでたくさんのいい影響があります。ひとつはストレスの軽減です。直接ペット触れ合うことがストレスの軽減にもつながっていますし、実際にペットを飼っている社員が家にペットだけで留守番させてしまっているという思いを抱くことによるストレスから解放されるメリットもあります。」

そして健康的なライフスタイルが促進されるという効果も。

「ともすれば 1 日中オフィスに座り続けていますが、犬が会社にくることで、立ち上がって会いに行ったり、飼い主さんは途中で外へ散歩に連れ出したりすることでリフレッシュもできます。」

ペットが介在すると社員同士の関係性にも影響を及ぼします。

「社員間の協調性が高まります。ペットを介在することで社員の間で会話が生まれ、協力関係を築きやすくさせます。さらに、会話のきっかけとなるペットの存在がムードを盛り上げ、社員の意欲向上にもつながり、ハッピーな職場環境を作りだしてくれています。」

ちなみにペットを飼っていないという高澤さんは、マース ジャパンに入社するまでペットにあまり触れる機会がなかったそうです。

「入社して 1 年ちょっと経ちますが、働き始めてみるとペットが職場にいることの良さを実感する日々です。たとえば犬や猫が会社にやってくる日の朝には、来るペットの情報を“今日のわんこ”“今日のにゃんこ”という形で紹介するメールが送られてきます。社内のモニターにもペットの情報が映し出されます。そのようなメールが朝に届くと、どんな犬がくるのかな？どんな猫がくるのかな？と毎回とてもワクワクした気持ちになります。」

配信されるメールを見た社員は、実際に来社したペットの周りに集まってくるそうです。

「一度も話したことがなかったり、仕事であまり関わりのない人でも、わんちゃんに会いに来ました！と言ってデスクのところへ行くようになります。仕事で関わりのない社員同士でも交流できる場になると実感しています。またペットがいますと、自然と優しい気持ちになりますので、普段見せないような表情を見ることもできます。社内の雰囲気がとてもよくなりますね。」

とはいえ、ペットフレンドリーオフィスの導入だけが、働き方改革や意識改革につながるものではないと高澤さんは言います。

「マース ジャパンでは働きやすい職場づくりをすることに力を入れています。フレックスや在宅勤務などの制度を導入したり、同じ趣味や興味を持つ人が集まり交流する場を設けるなど、さまざまなプログラムを実施しています。ペットの存在やペットを連れてきている人だけでなく、お子さんがいる方、朝早く出社する方、遅くに出社する方、家で働く方などさまざまな事情の上でさまざまな働き方をしています。そのような違いをお互いに受容できるカルチャーを作っているからこそペットフレンドリーオフィスも成り立つのだと思いますし、それがマース ペットケアの使命でもある人のためにもペットのためにもより良い世界を作る、ということにもつながっていくものと思っています。」

自由に自分らしく働く場をつくり、多くの人とすぐにつながれる場をつくり、そしてペットがいる職場をつくることで、お互いを認めて尊重し合いながら働ける職場が築かれ、働き方改革へと結びついていくのではないかと思います。」